

新規事業評価調書

【交通安全施設事業】

一般県道 石倉玉田線
(姫路市書写)

県土整備部
土木局 道路保全課

投資事業評価調書（新規）

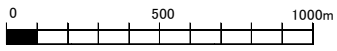
部課室名	県土整備部土木局 道路保全課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	道路保全課長 小谷 和弘 (保全班長 山名 孝志)	内線	4389 (4399)	
事業 種目	事業名	事業区間	総事業費	内用地 補償費	着手予定 年度	完了予定 年度
交通安全 施設事業	一般県道石倉玉田線 歩道設置事業	姫路市書写	1.2 億円	0.9 億円	平成 29 年度	平成 32 年度
事業目的			事業内容			
<p>○安全な歩行者・自転車通行空間の確保</p> <p>当該区間は、曾左小学校への通学に加え、書写中学校、東洋大付属姫路高校、県立大学への通学に利用されているが、自動車交通が多いにもかかわらず、歩道が未整備で、非常に危険な状況となっている。</p> <p>このため、歩道と幅広路肩を整備し、通学児童をはじめとする歩行者・自転車の安全な通行空間を確保する。</p>			<p>歩道設置（片側） 延長：180m 幅員：2.5m</p> <p>【現況交通量】（H28 実測） 自動車： 8,916 台／12h 自転車： 587 台／12h 歩行者： 181 人／12h</p> <p>【負担割合】 国：55% 県：45%</p>			
評価視点	評価結果の説明					
(1) 必要性	<p>① 当該区間は、曾左小学校の通学路（通学児童約50人）であるが、自動車交通が多いにもかかわらず、歩道が未整備であるため、児童は、狭い路肩（50cm）を通行せざるを得ず、非常に危険な状況である。</p> <p>② 小学校の通学以外でも、周辺の中学、高校及び大学への通学にも利用されており、歩行者、自転車の通行が多い。</p> <p>③ 過去5年の死傷事故件数は10件、うち歩行者・自転車の関係する事故は2件。</p>					
(2) 有効性 ・ 効率性	<p>① 歩道の整備及び幅広路肩の確保により、連続した安全な通行空間が確保される。</p> <p>② 幅広路肩の確保により、連続した自転車の通行空間が確保される。</p>					
(3) 環境適合性	<p>① 歩道舗装には、雨水が地中に浸透する透水性舗装を採用し、地下水涵養を図る。</p>					
(4) 優先性	<p>① 学校関係者、地元住民、道路管理者、警察等で実施した通学路合同点検において、当該区間での通学児童の危険性が指摘されており、姫路市の「通学路交通安全プログラム」に本事業が位置づけられている。</p> <p>② 通学路区間である当該区間が地元からの要望が強い。</p>					

位置図



H28. 4. 22(金) 実測
 自動車 8,916 台/12h
 自転車 587 台/12h
 歩行者 181 人/12h

(一) 石倉玉田線
 延長 180m

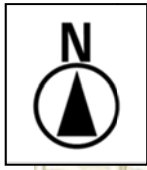


凡例	
高速道路	
県道	
事業区間	
学校等	
交通量調査位置	



平面図

至 夢前



至 石倉



(主) 姫路神河線

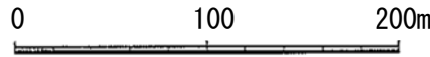
過去5年間(H23~H27年)の交通事故発生件数

年	発生件数
23	2
24	3
25	2
26	1
27	2
計	10

凡 例

- 事業区間 —
- 県道 —
- 通学路 —
- 既設歩道 —
- 交通事故発生地点

至 曾左小学校

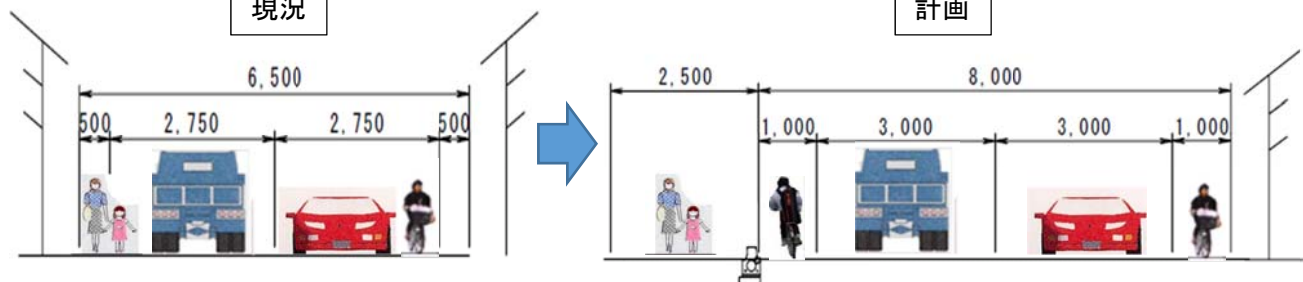


至 姫路市街

横断図

現況

計画



自転車・歩行者通行状況



整備スケジュール

工 種	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
測量・設計				
用地取得				
本工事				